

福島第一原子力発電所 海域モニタリング計画 (2022年4月改定)

東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

1. 福島県

	採取場所 (地点番号)	試料	採取層	分析項目	検出下限値 (Bq/L) ※1	分析頻度	備考	
発電所 近傍	1F 5~6号機放水口北側 (T-1)	海水	表層	Cs-134,Cs-137	1	1回/日	・表層は海面~海面下0.5m, また 底層は海底から2~3m上でサンプリ ング ・海水表層、海底土 (Pu-238,Pu- 239+Pu-240) : Pu-238が検出され た場合は、U-234, U-235, U-238, Am-241, Cm-242及びCm-243+ Cm-244も分析	
				Cs-134,Cs-137	1×10^{-3}	1回/週		
				Pu-238,Pu-239+Pu-240	1×10^{-5}	1回/6ヶ月		
				H-3	$4 \times 10^{-1+1}$	1回/週		
				Sr-90	1×10^{-3}	1回/月		
				全α	3	1回/月		
	全β	5	1回/週					
	1F 南放水口付近 (T-2)	海水	表層	Cs-134,Cs-137	1	1回/日		・表層、底層 (Cs-134,137:1回/ 週) : それぞれAMP沈殿濃縮法による セシウム詳細分析 ・福島第一原子力発電所南防波堤先 端にて、海水を連続的にモニタング (検出限界値: Cs-137(約 0.05Bq/L), 全β(約10Bq/L))
				Cs-134,Cs-137	1×10^{-3}	1回/週		
				Pu-238,Pu-239+Pu-240	1×10^{-5}	1回/6ヶ月		
				H-3	$4 \times 10^{-1+1}$	1回/週		
				Sr-90	1×10^{-3}	1回/月		
				全α	3	1回/月		
	全β	5	1回/日					
	1F 南放水口付近 (T-2)	海底土	-	Cs-134,Cs-137	1	1回/月	*1: 必要に応じて電解濃縮法により検 出値を得る *2: 電解濃縮装置の設置状況により, 当量は0.4Bq/Lにて実施 *3: 検出下限値を0.1Bq/Lまで下げた 分析は, 1回/月	
				Sr-90	2	1回/2ヶ月		
				Pu-238,Pu-239+Pu-240	3×10^{-2}	1回/6ヶ月		
				Cs-134,Cs-137	1	1回/日		
				Cs-134,Cs-137	1×10^{-3}	1回/週		
				全β	20	1回/週		
	港湾口 (T-0)	海水	表層	Cs-134,Cs-137	1	1回/日		*1: 必要に応じて電解濃縮法により検 出値を得る *2: 電解濃縮装置の設置状況により, 当量は0.4Bq/Lにて実施 *3: 検出下限値を0.1Bq/Lまで下げた 分析は, 1回/月
				Cs-134,Cs-137	1×10^{-3}	1回/週		
				全β	20	1回/週		
				H-3	3	1回/週		
				Sr-90	1×10^{-2}	1回/週		
				Cs-134,Cs-137	1	1回/週		
	1F 北防波堤北側 (敷地北側沖合 0.5km) (T-0-1)	海水	表層	Cs-134,Cs-137	1	1回/週	*1: 必要に応じて電解濃縮法により検 出値を得る *2: 電解濃縮装置の設置状況により, 当量は0.4Bq/Lにて実施 *3: 検出下限値を0.1Bq/Lまで下げた 分析は, 1回/月	
全β				20	1回/週			
H-3				$4 \times 10^{-1+1}$	1回/週			
Cs-134,Cs-137				1	1回/週			
全β				20	1回/週			
H-3				$4 \times 10^{-1+1}$	1回/週			
1F 港湾口北東側 (敷地北側沖合1km) (T-0-1A)	海水	表層	Cs-134,Cs-137	1	1回/週	*1: 必要に応じて電解濃縮法により検 出値を得る *2: 電解濃縮装置の設置状況により, 当量は0.4Bq/Lにて実施 *3: 検出下限値を0.1Bq/Lまで下げた 分析は, 1回/月		
			全β	20	1回/週			
			H-3	$4 \times 10^{-1+1}$	1回/週			
			Cs-134,Cs-137	1	1回/週			
			全β	20	1回/週			
			H-3	$4 \times 10^{-1+1}$	1回/週			
1F 港湾口東側 (敷地沖合1km) (T-0-2)	海水	表層	Cs-134,Cs-137	1	1回/週		*1: 必要に応じて電解濃縮法により検 出値を得る *2: 電解濃縮装置の設置状況により, 当量は0.4Bq/Lにて実施 *3: 検出下限値を0.1Bq/Lまで下げた 分析は, 1回/月	
			全β	20	1回/週			
			H-3	$4 \times 10^{-1+1}$	1回/週			
			Cs-134,Cs-137	1	1回/週			
			全β	20	1回/週			
			H-3	$4 \times 10^{-1+1}$	1回/週			
1F 南防波堤南側 (敷地南側沖合 0.5km) (T-0-3)	海水	表層	Cs-134,Cs-137	1	1回/週	*1: 必要に応じて電解濃縮法により検 出値を得る *2: 電解濃縮装置の設置状況により, 当量は0.4Bq/Lにて実施 *3: 検出下限値を0.1Bq/Lまで下げた 分析は, 1回/月		
			全β	20	1回/週			
			H-3	$4 \times 10^{-1+1}$	1回/週			
			Cs-134,Cs-137	1	1回/週			
			全β	20	1回/週			
			H-3	$4 \times 10^{-1+1}$	1回/週			
1F 港湾口南東側 (敷地南側沖合 1km) (T-0-3A)	海水	表層	Cs-134,Cs-137	1	1回/週		*1: 必要に応じて電解濃縮法により検 出値を得る *2: 電解濃縮装置の設置状況により, 当量は0.4Bq/Lにて実施 *3: 検出下限値を0.1Bq/Lまで下げた 分析は, 1回/月	
			全β	20	1回/週			
			H-3	$4 \times 10^{-1+1}$	1回/週			
			Cs-134,Cs-137	1	1回/週			
			全β	20	1回/週			
			H-3	$4 \times 10^{-1+1}$	1回/週			
1F 敷地北側沖合1.5km (T-A1)	海水	表層	Cs-134,Cs-137	1	1回/週	*1: 必要に応じて電解濃縮法により検 出値を得る *2: 電解濃縮装置の設置状況により, 当量は0.4Bq/Lにて実施 *3: 検出下限値を0.1Bq/Lまで下げた 分析は, 1回/月		
			H-3	$4 \times 10^{-1+1}$	1回/週			
			Cs-134,Cs-137	1	1回/週			
			H-3	$4 \times 10^{-1+1}$	1回/週			
			Cs-134,Cs-137	1	1回/週			
			H-3	$4 \times 10^{-1+1}$	1回/週			
1F 敷地沖合1.5km (T-A2)	海水	表層	Cs-134,Cs-137	1	1回/週		*1: 必要に応じて電解濃縮法により検 出値を得る *2: 電解濃縮装置の設置状況により, 当量は0.4Bq/Lにて実施 *3: 検出下限値を0.1Bq/Lまで下げた 分析は, 1回/月	
			H-3	$4 \times 10^{-1+1}$	1回/週			
			Cs-134,Cs-137	1	1回/週			
			H-3	$4 \times 10^{-1+1}$	1回/週			
			Cs-134,Cs-137	1	1回/週			
			H-3	$4 \times 10^{-1+1}$	1回/週			
1F 敷地南側沖合1.5km (T-A3)	海水	表層	Cs-134,Cs-137	1	1回/週	*1: 必要に応じて電解濃縮法により検 出値を得る *2: 電解濃縮装置の設置状況により, 当量は0.4Bq/Lにて実施 *3: 検出下限値を0.1Bq/Lまで下げた 分析は, 1回/月		
			H-3	$4 \times 10^{-1+1}$	1回/週			
			Cs-134,Cs-137	1	1回/週			
			H-3	$4 \times 10^{-1+1}$	1回/週			
			Cs-134,Cs-137	1	1回/週			
			H-3	$4 \times 10^{-1+1}$	1回/週			
1F 港湾内 (T-K1)	海藻類	-	Cs-134,Cs-137	2×10^{-1}	3回/年		*1: 必要に応じて電解濃縮法により検 出値を得る *2: 電解濃縮装置の設置状況により, 当量は0.4Bq/Lにて実施 *3: 検出下限値を0.1Bq/Lまで下げた 分析は, 1回/月	
			Cs-137,Cs-137	2×10^{-1}	3回/年			
			I-129	1×10^{-1}	3回/年			
			H-3 (組織自由水型)	$1 \times 10^{-1+2}$	3回/年			
			H-3 (有機結合型)	5×10^{-1}	3回/年			
			Cs-137,Cs-137	2×10^{-1}	3回/年			
1F 港湾外北側 (T-K2)	海藻類	-	I-129	1×10^{-1}	3回/年	*1: 必要に応じて電解濃縮法により検 出値を得る *2: 電解濃縮装置の設置状況により, 当量は0.4Bq/Lにて実施 *3: 検出下限値を0.1Bq/Lまで下げた 分析は, 1回/月		
			H-3 (組織自由水型)	$1 \times 10^{-1+2}$	3回/年			
			H-3 (有機結合型)	5×10^{-1}	3回/年			
			Cs-137,Cs-137	2×10^{-1}	3回/年			
			I-129	1×10^{-1}	3回/年			
			H-3 (組織自由水型)	$1 \times 10^{-1+2}$	3回/年			
1F 港湾外南側 (T-K3)	海藻類	-	H-3 (有機結合型)	5×10^{-1}	3回/年		*1: 必要に応じて電解濃縮法により検 出値を得る *2: 電解濃縮装置の設置状況により, 当量は0.4Bq/Lにて実施 *3: 検出下限値を0.1Bq/Lまで下げた 分析は, 1回/月	
			Cs-137,Cs-137	2×10^{-1}	3回/年			
			I-129	1×10^{-1}	3回/年			
			H-3 (組織自由水型)	$1 \times 10^{-1+2}$	3回/年			
			H-3 (有機結合型)	5×10^{-1}	3回/年			
			Cs-137,Cs-137	2×10^{-1}	3回/年			
2F 北放水口付近 (T-3)	海水	表層	Cs-137,Cs-137	1	1回/週	*1: 必要に応じて電解濃縮法により検 出値を得る *2: 電解濃縮装置の設置状況により, 当量は0.4Bq/Lにて実施 *3: 検出下限値を0.1Bq/Lまで下げた 分析は, 1回/月		
			Cs-134,Cs-137	1×10^{-3}	1回/週			
			全β	20	2回/月			
			H-3	$1 \times 10^{-1+2}$	1回/週 ³			
			Cs-134,Cs-137	1	1回/月			
			H-3	$1 \times 10^{-1+2}$	1回/週 ³			
2F 岩沢海岸付近 (T-4)	海水	表層	Cs-137,Cs-137	1	1回/週		*1: 必要に応じて電解濃縮法により検 出値を得る *2: 電解濃縮装置の設置状況により, 当量は0.4Bq/Lにて実施 *3: 検出下限値を0.1Bq/Lまで下げた 分析は, 1回/月	
			Cs-134,Cs-137	1×10^{-3}	1回/週			
			Cs-134,Cs-137	1	1回/月			
			Cs-134,Cs-137	1	1回/月			
			Cs-134,Cs-137	1	1回/月			
			Cs-134,Cs-137	1	1回/月			
請戸港南側 (T-6)	海水	表層	Cs-134,Cs-137	1×10^{-3}	1回/週	*1: 必要に応じて電解濃縮法により検 出値を得る *2: 電解濃縮装置の設置状況により, 当量は0.4Bq/Lにて実施 *3: 検出下限値を0.1Bq/Lまで下げた 分析は, 1回/月		
			全β	20	2回/月			
			H-3	$1 \times 10^{-1+2}$	1回/週 ³			
			Cs-134,Cs-137	1×10^{-3}	1回/週			
			Cs-134,Cs-137	1×10^{-3}	1回/週			
			Cs-134,Cs-137	1×10^{-3}	1回/週			
小高区沖合3km (T-14) 岩沢海岸沖合3km (T-11)	海水	表層	Cs-134,Cs-137	1×10^{-3}	1回/週		*1: 必要に応じて電解濃縮法により検 出値を得る *2: 電解濃縮装置の設置状況により, 当量は0.4Bq/Lにて実施 *3: 検出下限値を0.1Bq/Lまで下げた 分析は, 1回/月	
			Cs-134,Cs-137	1×10^{-3}	1回/週			
			Cs-134,Cs-137	1	1回/月			
			Cs-134,Cs-137	1×10^{-3}	1回/週			
			Cs-134,Cs-137	1×10^{-3}	1回/週			
			Cs-134,Cs-137	1×10^{-3}	1回/週			
請戸川沖合3km (T-D1) 1F敷地沖合3km (T-D5) 2F敷地沖合3km (T-D9) 1F敷地沖合15km (T-5)	海水	表層	Cs-134,Cs-137	1×10^{-3}	1回/週	*1: 必要に応じて電解濃縮法により検 出値を得る *2: 電解濃縮装置の設置状況により, 当量は0.4Bq/Lにて実施 *3: 検出下限値を0.1Bq/Lまで下げた 分析は, 1回/月		
			Pu-238,Pu-239+Pu-240	1×10^{-5}	1回/6ヶ月			
			H-3	$1 \times 10^{-1+2}$	1回/週 ³			
			Sr-90	1×10^{-3}	1回/月			
			全α	3	1回/月			
			全β	20	2回/月			
小高区村上沖合1km (T-①) 小高区村上沖合2km (T-②) 浪江町請戸沖合1km (T-③) 浪江町請戸沖合2km (T-④) 浪江町請戸沖合3km (T-⑤) 大熊町熊川沖合1km (T-⑥) 大熊町熊川沖合2km (T-⑦) 大熊町熊川沖合3km (T-⑧) 大熊町熊川沖合5km (T-⑨) 大熊町熊川沖合10km (T-⑩) 大熊町熊川沖合15km (T-⑪) 大熊町熊川沖合20km (T-⑫)	海底土	-	Cs-134 Cs-137	1	1回/月		*1: 必要に応じて電解濃縮法により検 出値を得る *2: 電解濃縮装置の設置状況により, 当量は0.4Bq/Lにて実施 *3: 検出下限値を0.1Bq/Lまで下げた 分析は, 1回/月	
			Cs-134,Cs-137	1	1回/月			
			Cs-134,Cs-137	1×10^{-3}	1回/週			
			Cs-134,Cs-137	1×10^{-3}	1回/週			
			Cs-134,Cs-137	1×10^{-3}	1回/週			
			Cs-134,Cs-137	1×10^{-3}	1回/週			

	採取場所(地点番号)	試料	採取層	分析項目	検出下限値 (Bq/L) ※1	分析頻度	備考
沿岸 30km 圏内	岩沢海岸沖合15km (T-7)	海水	表層	Cs-134,Cs-137	1×10^{-3}	1回/月	*2: 電解濃縮装置の設置状況により、当 面は0.4Bq/Lにて実施
			底層	H-3	$1 \times 10^{-1+2}$	1回/月	
		海底土	-	Cs-134,Cs-137	1	1回/2カ月	
沿岸 30km 圏外	新田川沖合1km (T-13-1) 相馬沖合3km (T-22) 鹿島沖合5km (T-MA)	海水	表層	Cs-134,Cs-137	1×10^{-3}	1回/月	
			底層	H-3	$1 \times 10^{-1+2}$	1回/月	
		海底土	-	Cs-134,Cs-137	1	1回/2カ月	
	小名浜港沖合3km (T-18) 沼の内沖合5km (T-M10)	海水	表層	Cs-134,Cs-137	1×10^{-3}	1回/月	
			底層	H-3	$1 \times 10^{-1+2}$	1回/月	
		海底土	-	Cs-134,Cs-137	1	1回/2カ月	
	いわき市北部沖合3km (T-12) 夏井川沖合1km (T-17-1) 豊間沖合3km (T-20)	海水	表層	Cs-134,Cs-137	1×10^{-3}	1回/月	
			底層	H-3	$1 \times 10^{-1+2}$	1回/月	
		海底土	-	Cs-134,Cs-137	1	1回/2カ月	
沿岸 20km 圏内 (魚類採 取点)	太田川沖合1km付近 (T-S1)	魚類	-	Cs-134,Cs-137	10	1回/月	*魚類のうち、Cs-134+Cs-137が高い試 料についてSr-90を分析 (検出限界値: 0.02(Bq/kg (生))) *T-S2は、T-14 (小高区沖合3 km) と同一の採取場所であり、T-14 では海水(上(Cs詳細)、下(Cs詳 細))を週1回、海底土(y)を月1回 実施
				H-3 (組織自由水型)	$1 \times 10^{-1+2}$		
				H-3 (有機結合型)	5×10^{-1}		
		海水	表層	Cs-134,Cs-137	1×10^{-3}		
	底層		H-3	$1 \times 10^{-1+2}$			
	表層		H-3	$1 \times 10^{-1+2}$			
	海底土	-	Cs-134,Cs-137	1			
	小高区沖合3km付近 (T-S2)	魚類	-	Cs-134,Cs-137	10		
				H-3 (組織自由水型)	$1 \times 10^{-1+2}$		
				H-3 (有機結合型)	5×10^{-1}		
		海水	表層	Cs-134,Cs-137	1×10^{-3}		
	底層		H-3	$1 \times 10^{-1+2}$			
	表層		H-3	$1 \times 10^{-1+2}$			
	海底土	-	Cs-134,Cs-137	1			
	請戸川沖合3km付近 (T-S3)	魚類	-	Cs-134,Cs-137	10		
				H-3 (組織自由水型)	$1 \times 10^{-1+2}$		
				H-3 (有機結合型)	5×10^{-1}		
		海水	表層	Cs-134,Cs-137	1×10^{-3}		
	底層		H-3	$1 \times 10^{-1+2}$			
	表層		H-3	$1 \times 10^{-1+2}$			
	海底土	-	Cs-134,Cs-137	1			
	1F敷地沖合3km付近 (T-S4)	魚類	-	Cs-134,Cs-137	10		
				H-3 (組織自由水型)	$1 \times 10^{-1+2}$		
				H-3 (有機結合型)	5×10^{-1}		
		海水	表層	Cs-134,Cs-137	1×10^{-3}		
	底層		H-3	$1 \times 10^{-1+2}$			
	表層		H-3	$1 \times 10^{-1+2}$			
	海底土	-	Cs-134,Cs-137	1			
	木戸川沖合2km付近 (T-S5)	魚類	-	Cs-134,Cs-137	10		
				H-3 (組織自由水型)	$1 \times 10^{-1+2}$		
				H-3 (有機結合型)	5×10^{-1}		
		海水	表層	Cs-134,Cs-137	1×10^{-3}		
	底層		H-3	$1 \times 10^{-1+2}$			
	表層		H-3	$1 \times 10^{-1+2}$			
	海底土	-	Cs-134,Cs-137	1			
	2F敷地沖合2km付近 (T-S7)	魚類	-	Cs-134,Cs-137	10		
				H-3 (組織自由水型)	$1 \times 10^{-1+2}$		
				H-3 (有機結合型)	5×10^{-1}		
		海水	表層	Cs-134,Cs-137	1×10^{-3}		
	底層		H-3	$1 \times 10^{-1+2}$			
	表層		H-3	$1 \times 10^{-1+2}$			
	海底土	-	Cs-134,Cs-137	1			
	熊川沖合4km付近 (T-S8)	魚類	-	Cs-134,Cs-137	10		
				H-3 (組織自由水型)	1×10^{-1}		
				H-3 (有機結合型)	5×10^{-1}		
		海水	表層	Cs-134,Cs-137	1×10^{-3}		
	底層		H-3	1×10^{-1}			
	表層		H-3	1×10^{-1}			
	海底土	-	Cs-134,Cs-137	1			
	小高区沖合15km付近 (T-B1)	魚類	-	Cs-134,Cs-137	10		
				H-3 (組織自由水型)	$1 \times 10^{-1+2}$		
				H-3 (有機結合型)	5×10^{-1}		
		海水	表層	Cs-134,Cs-137	1×10^{-3}		
	底層		H-3	$1 \times 10^{-1+2}$			
	表層		H-3	$1 \times 10^{-1+2}$			
	海底土	-	Cs-134,Cs-137	1			
	請戸川沖合18km付近 (T-B2)	魚類	-	Cs-134,Cs-137	10		
				H-3 (組織自由水型)	$1 \times 10^{-1+2}$		
				H-3 (有機結合型)	5×10^{-1}		
		海水	表層	Cs-134,Cs-137	1×10^{-3}		
	底層		H-3	$1 \times 10^{-1+2}$			
	表層		H-3	$1 \times 10^{-1+2}$			
	海底土	-	Cs-134,Cs-137	1			
	1F敷地沖合10km付近 (T-B3)	魚類	-	Cs-134,Cs-137	10		
				H-3 (組織自由水型)	$1 \times 10^{-1+2}$		
				H-3 (有機結合型)	5×10^{-1}		
		海水	表層	Cs-134,Cs-137	1×10^{-3}		
	底層		H-3	$1 \times 10^{-1+2}$			
	表層		H-3	$1 \times 10^{-1+2}$			
	海底土	-	Cs-134,Cs-137	1			
	2F敷地沖合10km付近 (T-B4)	魚類	-	Cs-134,Cs-137	10		
				H-3 (組織自由水型)	$1 \times 10^{-1+2}$		
				H-3 (有機結合型)	5×10^{-1}		
		海水	表層	Cs-134,Cs-137	1×10^{-3}		
	底層		H-3	$1 \times 10^{-1+2}$			
	表層		H-3	$1 \times 10^{-1+2}$			
	海底土	-	Cs-134,Cs-137	1			

2. 宮城県

	採取場所(地点番号)	試料	採取層	分析項目	検出下限値 (Bq/L) ※1	分析頻度	備考
沿岸 30km 圏外	南三陸沖 (T-MG0)	海水	表層 底層	Cs-134,Cs-137	1×10^{-3}	1回/月	それぞれAMP沈殿濃縮法によるセシウム詳細分析
	石巻湾 (T-MG1)						
	金華山東沖 (T-MG2)						
	金華山南沖 (T-MG3)						
	七ヶ浜沖 (T-MG4)						
	仙台湾中央 (T-MG5)						
	阿武隈川沖 (T-MG6)						

3. 茨城県

	採取場所(地点番号)	試料	採取層	分析項目	検出下限値 (Bq/L) ※1	分析頻度	備考
沿岸 30km 圏外	磯原海岸沖合3km (T-Z)	海水	表層 底層	Cs-134,Cs-137	1	1回/月	それぞれ海水の表層・底層のガンマ核種分析。表層は海面～海面下0.5m, また底層は海底から2～3m上でサンプリング
	高戸小浜海岸沖合3km (T-A)						
	久慈浜海岸沖合3km (T-B)						
	大洗海岸沖合3km (T-C)						
	平井海岸沖合3km (T-D)						
	波崎海岸沖合3km (T-E)						

※1 検出限界値は目標値
 海底土はBq/kg (乾土)
 魚類のCs-134,137はBq/kg (生), H-3はBq/L
 海藻類のCs-134,137, I-129はBq/kg (生), H-3はBq/L